

「隠れたことを見ておられる主」

(マタイの福音書 6 章 1 節～4 節)

「あなたは、施しをするとき、右の手のしていることを左の手に知られな
いようにしなさい」(6:3)

仲森文穂

今日 の メ ッ セ ー ジ 要 旨

○ユダヤの人々は、祈り、断食、施しの3つを信仰生活における善きわざと定めていました。「施し」は隣人に対する愛であり、「祈り」は神様に対する善であり、また断食は罪を悲しむ義の行為として、日常的に行うことを信仰の証と考えていました。しかし、そこに偽善が入り込んできます。イエス様は「人に見せるために人前で善行をしないように気をつけなさい」と、戒めておられます。そうでないと「天の父のもとで報いをいただけないことになる」からです。イエス様の言葉は真理をついています。本当の善行というものは、人に見てもらうなんて考えないのです。人が見ていればするが、見ていなければするのが馬鹿らしい、ということではないのです。

○イエス様は、「あなたは、施しをするとき、右の手のしていることを左の手に知られないようにしなさい」と言われます。これは、自分がこんな良いことをしたとつい言いたくなる自分自身を一番警戒しなさい、という意味なのでしょう。お葬式の弔辞で、故人の思いがけない一面、例えば隠れた良いわざを行っていた云々、と知ることがあります。私などは人にほめられることが大好きです。良いことをしている自分を隠すことができません。ですから、イエス様のお言葉はいつも耳に痛いのです。耳に痛いのですが、私はそんなイエス様が大好きです。なぜなら、この方の言葉には真理があるからです。傲慢な私がうちのめされ、そして救いあげてくださるからです。

○イエス様は弟子たちに向かって、「私があなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合いなさい」と仰いました。私たちが奉仕をする動機は、このイエス様が示された愛に応答するところにあります。とは言いながらも、私たちは感情の動物でもあります。良いわざをして、小さなお礼の言葉などをいただいたりすると、やはり嬉しく、励みになります。私は、色々奉仕をしてくださる方々に、さりげなく、ねぎらいの言葉をかけることを心がけてきました。

御教会でも皆さんの尊いご奉仕があって、教会の働きが成り立っていることを思います。すべての奉仕はイエス様の愛に対する私たちの応答、感謝として行われますが、私たちお互いに他の人の奉仕の業に、当たり前ではなく、感謝と敬意を抱く者でありたいですね。それによって施しや奉仕の業が愈々祝され、私たちの交わりが感謝に満ちたものとなる、と心から信じるものであります。 祈り。